

秋田近代史研究会

2025年春季研究会のお知らせ

◇日 時：5月24日（土）13:00～16:00

◇会 場：遊学舎（秋田県ゆとり生活創造センター）研修室2
秋田市上北手荒巻字境切24-2 ☎018-829-5801

＊どなたでも自由に聴講できます（無料）。

■報告① 高橋務 13:00～14:30

〔略歴〕元高校教員、本会代表委員

「公文書から見た青年学校教育の展開過程」

第一次世界大戦後、小学校卒業後の実業補習教育が奨励され、実業補習学校が設置された。一方陸軍は総力戦体制を構想し、教練の訓練をうけた男子が徴兵検査を受ける体制を目指して青年訓練所を設置した。この性格の異なる実業補習学校と青年訓練所はともに小学校に付設されるが、昭和初期の青年訓練所充当実業補習学校を経て、昭和10年には完全統合され青年学校となり、昭和14年には男子就学義務制となった。

陸軍・文部省が進めた青年学校教育とはどういうものであったかを横手市に残る公文書を通じて明らかにしたい。

■報告② 柴田知彰 14:30～16:00

〔略歴〕県公文書館古文書チーム専門員、本会副代表委員

「近代日本における県治体制の構造に関する研究 —秋田県を事例とする史料学的方法を用いた分析—」

近代の県レベルの地方制度を政府の統治と住民の自治から成る「県治体制」として、秋田県を事例に解明を目指した。県庁・郡役所文書群の分析から県治体制では「郡」が県と町村の結節点として極めて重要だったことが明確になった。郡役所や郡会は100年前に廃止されたため先行研究ではあまり注目されてこなかったが、その機能や実態を浮き彫りにしたい。

郡役所は大正15年に廃止されたが、昭和17年には総力戦の実行機関たる地方事務所として復活する経緯を明らかにし、総力戦の一端を描き出したい。さらに県の文書管理・文書群の分析で戦中から戦後への連続と非連続を明らかにしたい。